

南アフリカ 柑橘類と仁果類の2024年の輸出は有望

FreshPlaza 2024年1月23日

増収を示す兆候が見られるため、南アフリカ柑橘類生産者協会(CGASA)は2024年に期待している。しかし、同協会のジャスティン・チャドウィックCEOによると、世界の市場への果実の配送がうまく行くかどうかについてはまだ懸念がある。南アフリカの柑橘類の出荷シーズンは、2月のレモンから始まり、9月に終わる。

チャドウィック氏はニュースレターで、「4月に収穫が本格化すれば、世界中の消費者が待ち望んでいる我々の柑橘類を十分に提供できると、当協会の生産者達は保証する」と述べている。

さらに、仁果類(リンゴ・ナシ等)部門は、2023年の雹害により他の主要な産地からの輸出が減少したため、2024年について楽観的である。業界団体のホートグロは、2024年のリンゴの輸出量は有望で、ナシの輸出量は平均をわずかに下回る、すなわちリンゴの輸出量は7%増加し、ナシの出荷量は1%増加すると予測している。

しかし、チャドウィック氏は、南アフリカの物流の状況は改善が必要であり、特に出荷が始まる前に港湾の混雑に対処する必要があると強調した。

同氏は、ダーバン港のコンテナターミナル第2埠頭の改修に国際コンテナターミナルサービス社(ICTS)が選ばれたことを歓迎し、来たるシーズンに官民パートナーシップの成果が感じられることへの期待を表明した。

出典: www.iol.co.za

インド ブドウの生産量が増加 輸出運賃は高騰

FreshPlaza 2024年1月25日

「運賃が1,200ドルから5千ドルに」

インドのブドウの出荷シーズンは、様々な課題に悩まされている。シュブハムエンタープライズ社のスーミット・ブージュバル事業開発部長は、「インドのブドウの出荷シーズンは12月から4月まで続く。今シーズンは、序盤に季節外れの雨が降り、影響を受けた地域ではブドウが減収した。この間にブドウの価格は上昇した。その後1月1日までトラック運転手の抗議行動が2、3日続き、サプライチェーン全体が混乱した。そのため、収穫と梱包を数日間中断せざるを得なかった。日が経つにつれて状況は良くなり、今のところ、残りのシーズンに向けてすべてがしかるべく順調に進んでいる」と語った。(以下「」は同部長の発言)

同部長は、同社の重点的な出荷先は中東であり、それはまだ多くの量を輸出できていることを意味していると言う。「今のところ、トンプソン、ソナカ、スーパーソナカ、クリムゾン、ブラックシャレード、ブラックジャンボなどの品種が順調に収穫されており、様々な市場向けに出荷されている。インド産ブドウの需要は世界的に高まっている。今シーズンは、昨年に比べて間違いなくブドウの出荷量が多い。一部は雨の影響を受けたが、それでも出荷量は増えた。当社は過去15年間ブドウを輸出しており、中東諸国が主な輸出市場となっている。しかし、ヨーロッパや東南アジアの市場とも取引がある。」

ヨーロッパへの輸出は非常に困難で高コストになっているが、同部長によると、同社はまだヨーロッパの取引先に荷を送っている。「紅海の状況は非常に不確実になり、運賃は1,200ドルから5千ドルに上昇した。また、輸送に要する日数も2週間長くなっている。紛争が沈静化する兆しが見えないため、我々輸出業者にとって大きな懸念事項となっている。これは、インドの輸出業者とヨーロッパの輸入業者の双方にとって困難な状況である。紅海の状況が正常に戻るまでは、喜望峰を迂回してヨーロッパに到着する船舶を選択し、梱包を強化して出荷することが唯一の選択肢だ。」

執筆者: ニック・ピーターズ